

枚方市教育委員会との懇談会

1.開会宣言(司会)

今回の懇談会の趣旨説明。

2.枚方市 PTA 協議会 福川会長の挨拶

(要旨)

毎年、懇談会を開催しているが、今回は是非こんな風に思っているというお互いの考えを示す会にしよう。PTA 側では市教委がどのように認識し、どうしようと考えているかを聞いてもらい、こうして欲しい、こうすべきだといった要望はこの会の趣旨を考えて、出さないようご理解を頂きたい。

3.高野教育長の挨拶

(要旨)

PTA の安全・安心な学校づくりのため、様々な取り組みを行って頂き、感謝している次第。市でも、アスベスト、(校舎の)耐震対策、児童の安全確保を最優先で取り組んでいる。一方、不登校、ニート、地方分権化等課題はあり、市でも、子育て、教育のまちを目指し、平成 10 年度以降取り組んできた。英語での教育特区もと、今後も、学校園・地域・家庭の連携を一層強化していきたい。

4.懇談会

(1)幼稚園部会～藤井部会長

(PTA)

防犯面にポイントを絞って、お伺いしたい。園の門やフェンスは低く、簡単に乗り越えられる。小学校と隣接するケースでは、幼稚園に侵入すれば、小学校に簡単に侵入できる。門などの鍵も信用性が低いとみられ、保護者から不評を買っている。これらを考えると、子供が狙われている状態となっている。侵入者への対抗措置として、さすまたが配備されているが、幼稚園の職員は女性が殆どで、使える状況にはなく、正しい使い方を知らない人も多い。防御面がとても不安である。

(市教委)

確かに、幼稚園の門は 1.4m で、それは低いと認識しており、改修を進める都度 1.8m への検討を行っている。それでも、1.4m という高さは、それを越えるにはよじ登るといった不自然な形となるので、守りの面での効果はないとは認識していない。有刺鉄線を張り巡らすことも有効だと思うが、その安全性を考えれば、実施には踏み切れない。

鍵については、きちんと閉まっていることが必須。本来は南京錠がいいが、不便さが残り、その妥協の形が現状。運用は、園の方に委ねているのが実態。

防御の道具は何かいいかを検討した中で、警察の指導もあり、さすまたの有効性も確認できたので、採用している。講習会は随時実施し、講習会を受けた先生にも、自分の職場で講習会をして、習熟してもらうようお願いしている。

(PTA)

有刺鉄線については、「開かれた園」にはふさわしくない、でも子供の命には変えられないと思う母も多いということを知っておいて欲しい。

門については、乗り越えやすいし、老朽化しているものも多い。鍵についても、組み合わせ錠を使っている園で、そのナンバーを保護者に知らせて、子供までが知って、安全確保になっていないケースや実際に子供が簡単に壊してしまった事件もある。

さすまたの講習会は続けて欲しい。でも、より簡単に有効なものがあればいいと思う親もいることを伝えたい。

(2) 小学校部会～田中副部長 他

(PTA)

施設についてお聞きしたい。どういう予算になって、何をどんな順番で行っているのか。基準や優先順位などあれば、教えていただきたい。

(市教委)

平成 18 年～23 年まで「すべての校舎の耐震化」に比重を高く置いている。確かに、幼稚園の門は 1.4m で、それは低いと認識しており、改修を進める都度 1.8m への検討を行っている。それでも、1.4 m という高さは、それを越えるにはよじ登るといった不自然な形となるので、守りの面での効果はないとは認識していない。有刺鉄線を張り巡らすことも有効だと思うが、その安全性を考えれば、実施には踏み切れない。

(PTA)

補強が必要なところはどのくらいあるのか。

(市教委)

小・中併せて 194 の建物となっている。

(PTA)

今まで、その 194 の建物は何もしていないのか。

(市教委)

昨年度 8 校 8 棟、今年度 5 校 7 棟が実績で、18 年度から年間約 30 棟のペースで進めて行きたい。

(PTA)

図書室の本について、児童の希望に沿ったものを揃えているのか。

(市教委)

児童の希望するものは、多くの教員の方で分っている。図書委員会を作ってやるところもある。学校によってやり方が違う。

(PTA)

トイレ補修の予算はどれくらいあるのか。緊急なら、対応してもらえるのか。

(市教委)

トイレはほぼみんなのところから希望があるが、配管の入替えを伴う場合、1F～3F で約 3,000 万円かかる。これは、国庫補助によって賄うが、その建物が耐震化されていることが条件となる。なお、緊急については、当然対処する。

(PTA)

中学校でバスケットボールの籠が落ちた事件があったのだが、検査などはしているのか。

(市教委)

定期的な点検は実施している。補修が必要なら、対応している。

(PTA)

検査はプロが行っているのか。

(市教委)

基本的には教員が行っている。

(PTA)

プロでないのは、不安だと思うが。

(市教委)

普段使っている教員が「おかしい」と思って報告するのだから、問題はないと思われる。

(PTA)

学校の設備の点検をしたところ、防火扉が開かないことが分った。日常使わないものではあるが、こういった設備の点検をどれ位の頻度で、どの程度までするのか、その方針を開示して欲しい。

(市教委)

法律で定められて、1年目。今後はより良い方へ検討していきたい。

(3) 子供人権啓発委員会～亀井委員長

(PTA)

市P協の委員会活動について話、レジュメ下線部の具体的な説明を求めた。

(市教委)

児童は「自分に自信が無い」という者が多く、自尊感情の育成、例えば、周りの人に自分の良いところを言ってもらう、断り方や主張の仕方などを参加体験型の形で取り組みをしている。

いじめ、不登校といった問題は担任が1人で抱え込むことになりがちなので、複数での対応を基本としている。

そういったことが、保護者に伝わらないことについては、課題だと思う。

(特別支援教育について、具体的な説明あり。)

(PTA)

学童保育は4年までだが、5、6年まで延長はできないか。

(市教委)

学童保育、所謂、留守家庭児童会は所管が市の青少年課で、詳しいことは判らない。ただ、いろいろ検討はしているようだ。

(PTA)

特別支援教育について、その実例はあるのか。スクールカウンセラー～の効果はあるのか。

(市教委)

すぐに効果が出るとは思わないが、権威のタケダ先生を招き、学校、家庭での対応について研究を行っているところ。

不登校について、現在小学校がプラマイ・ゼロ、中学校が増加傾向で推移しているが、その取り組みはチームを組んで対応している。不登校の生徒の居場所づくりとして、別の教室を設けて、学校に来るといふ第一段階をクリアしようとしている。府の方からボランティアの指導員も招き、対応。相談活動は、スクールカウンセラーを配置して対応している。

(PTA)

特別支援教育について、ある学校で、家庭科の時間に生徒が刃物を扱う際にある事件があったが、先生が対応をとっていない現状という。そういったことを現場の先生が知っているのか。

(市教委)

特別支援教育の講習、研修を進めているが、完全ではない。先生が対応を取らないというのなら、教頭や校長へ個別に言って欲しい。

(4) 中学校部会～秋山部会長 他

(PTA)

地域協は存続していくのか。

(市教委)

府からの補助は当初から4年間で、それが2年間延長された経緯あり。今後も、補助を継続してもらうようお願いしている。

(PTA)

18年度の見込みはどうか。

(市教委)

現状では、今年度並と考えている。

(PTA)

府の補助がなくなるから、事業が継続できないというのではなく、最終描いたビジョンがあるはずで、それに対する現在の達成度は。

(市教委)

各地区特色のあることを行ってもらっている様子なので、続けて行きたい気持はある。継続できるように努力はしていきたい。地域力を高めていこう、安全で住みよい、育成していける地域を作っていこうという考えはある。

(PTA)

PTA で取り組めない行事が展開されてきているが、予算が無くなれば、せっかくの行事も存続できなくなり、残念。活動実態を見て、それに応じた判断をして、予算をつけるなどできないか。

(市教委)

国の制度で、「子供の夢基金」というものがあり、それを活用してはどうか。

(PTA)

校区弾力化について、問題点として捉えている事柄は何か。

(市教委)

「受入可能人数」という問題がある。それを超えた場合、希望に添えないという点が挙げられる。また、「通学距離」については、家庭において費用負担増という問題が発生する。ただし、小学校等においては学年途中での転居といった事情に対応できる制度と考えている。(デメリットよりメリットの方が大きいという認識。)現状まで、弾力化についての苦情の電話などはない。

(PTA)

クラブ活動について、立ち上げやすいルール作りが必要なのではないか。

(市教委)

クラブ活動の重要性は認識しているが、顧問、部員数の要件は学校によって多少差はある。部活動の指導協力者派遣も進めており、鋭意改善を図っている。

(PTA)

教員の資質について、保護者の希望は通るのか。また、安全面の指導なども必要性が高いと考えられるので、塾の把握はしているのか。

(市教委)

先ず、安全面については、塾との話し合いを持ったが、塾のほうも問題意識は高く、不審者情報の共有や体制についての連携をしたいとのことであった。

教員の資質向上のため、研修を行っている。その中で、教育技術などベテランよりアドバイスも行っている。学校では、評価育成システムを設け、評価していき、「学校教育自主診断」を入れ、その結果を次年度に活かすようにしている。外部からの苦情も勘案している。

(PTA)

「評価育成システム」は公開可能か。

(市教委)

調べてみるので、公開可能ならば、市P協の会長へ後日情報を提供する。

(PTA)

幼稚園の義務教育化の問題が新聞に載っていたが、何か情報はあるか。

(市教委)

新聞でも文部科学省より「その決定はしていない」と公表されていた程度である。

(5)生活指導委員会～吉川委員長 他

(PTA)

警報について、大雨や雷雨の場合は対応があるが、暴風の場合はどうしているのか。

(市教委)

下校時については、警報の危険性を学校で判断して対応している。

(PTA)

登校時の対応は。

(市教委)

立地条件等もあり、各学校で対応している。

(PTA)

評価育成システム、(教員の)質向上のための研修、特別支援教育に関して、再度内容をもう一度具体的に説明して欲しい。

(市教委)

「評価育成システム」では全体の研修に加え、個別に面談もし、指導も行っている。

教員の専門性、人間性を重視し、その年数、教科に応じた研修を行っており、参加型のものも実施している。

特別支援教育についても、同様に行っており、受けた研修を学校内で再度他の教員に行うようにしている。

5.奈良教育部長～まとめ

(要旨)

今回は様々な視点から多くの質問を受けたが、時間的な制約もあり、個別については、教育委員会に来てもらえばよい。

6.閉会にあたり～枚方市 PTA 協議会 福川会長

(要旨)

今回は時間的な要因もあり、「ふれ愛フリースクエア」について懇談会のテーマから外したが、別の機会にと考えている。

以上